

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年7月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4694300106
法人名	社会福祉法人 椎原寿恵会
事業所名	グループホーム 椎原館
所在地	鹿児島県南九州市川辺町中山田1892番地 (電話) 0993-58-9391
自己評価作成日	平成30年6月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成30年7月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

○平成29年11月1日に新事業所として開設。建物には冷暖房の効率を高める断熱材を使用しており、浴室にも暖房を設置。台所は、作業台が独立して入居者様と対面できるアイランドキッチンである。畑で季節の野菜や花を育てており、入居者様が園芸に取り組まれている。

○こども園が隣接しており、お遊戯会や芋掘りなど行事を通して交流している。地域との交流を深め、温かい家庭的な雰囲気の中で、入居者様が毎日の生活を楽しく過ごして頂けるように支援する。

○協力医療機関である医療法人椎原会有馬病院と連携して、入居様の健康管理を行っている。訪問診療(月2回)、訪問看護(週1回)の他、有馬病院と24時間の連絡体制をとり、常に訪問看護や緊急搬送等の対応ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)】

- ・当事業所は、広い敷地に立地し、隣接してこども園があり子供達との交流を通して入居者の笑顔が見られる。利用者の人格や意志を尊重し、地域の中で花や畑で野菜を作ったり、梅干しやラッキョウ漬け・団子作り等、その人らしい生活を大切にして取り組んでいる。
- ・管理者や職員は、利用者主体の介護サービスの実践を、研修を積みながら取り組んでいる。
- ・日常の健康管理が行き届き、訪問看護や医師・家族との連携がとれ、24時間医療連携体制が整っており、緊急時の対応も安心である。
- ・利用者の楽しみの支援が多く、花見ドライブや買い物等、メリハリのある暮らしを行っている。
- ・職員間のコミュニケーションが良く、意見や提案を出し合い、月1回のカンファレンスで話し合い介護サービスに活かしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	入居者様に寄り添うことを理念の中心に盛り込み、朝礼時に全職員で読み上げ共有している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念があり、玄関やトイレに掲示している。パンフレットにも掲載している。朝礼の時に唱和して意識を高め、職員会議でも確認し合い実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接するこども園と芋掘り、お遊戯会、普段の散歩等で交流している。運営推進会議では、地域の民生委員二名に参加して頂き、当館の状況を報告している。	自治会に加入し、広報誌で地域の情報を得たり、公民館長や民生委員の協力を得ている。散歩の時のあいさつや隣接のこども園のお遊戯会・芋ほり等に参加している。地域の行事である太鼓踊りやボランティア・紙芝居等の訪問があり、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	事業所として、地域の人々に認知症の理解を深めてもらう情報発信ができていない。地域行事に積極的に参加することに努めながら、その方法について模索中である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ご家族、民生委員、行政に参加して頂き、当館の現状を報告してご意見を頂いている。提供する介護サービスに、そのご意見を反映するように努めている段階である。</p>	<p>定期的に2ヶ月毎に開催している。入居者の状況・職員の異動・行事予定や報告・ヒヤリハット・事故報告・研修会の予定等、報告して、参加者からは地域の情報やケアに関する意見交換が行われている。出された意見はサービス向上に活かすように努めている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議、介護保険の加算手続き、入居者様の後見開始の申し立てなど、様々な場面で当館より連絡、相談をして、ご協力頂いている。</p>	<p>支所に出向いたり電話やメールで相談をしたり、情報交換を行っている。運営推進会議にも参加してもらい実情を伝えている。市の研修会には積極的に参加して、協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束に関する勉強会を進めながら、身体拘束に関する意識を高め、拘束しないケアを実践する。身体拘束廃止に関する指針を作成しており、やむを得ず行う場合は、本人・家族へ説明して同意を得て、経過を記録する。</p>	<p>身体拘束廃止に関する指針やマニュアルを作成し、定期的に勉強会を行って、意志の統一を図っている。言葉の拘束も含め事例を挙げて研修し、身体拘束ゼロを実践している。日中は玄関の鍵はしていない。外出したい時は散歩や車でドライブして、気持ちが落ち着くまで同行している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>全職員で防止に努めているが、高齢者虐待防止法等について学習不足であり、事業所の課題である。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>制度の利用が必要な入居者様に市町村と連携して支援しているが、職員全体としては理解が不足しており、研修が必要である。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約内容について、書面を使いながら、分かり易い説明に努めている。入居者様、ご家族に疑問がある時は、十分に時間をかけて説明を行う。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族からの要望があれば、管理者より全職員に伝え、場合によっては職員会議で話し合う。入居者様の要望を完全に把握できているとは言えず、今後の運営に反映させる取り組みが必要と考えている。</p>	<p>家族からは面会時や毎月の状況報告時に、利用者からは日常の関わりの中で思いや意見・要望などを聞くように心がけている。把握した思いや意見・要望は、職員会議等で話し合いケアや運営に反映させている。今後、家族会の開催やアンケート調査の実施を計画している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	検討委員会を設置し、各担当職員の提案を職員会議の場で話し合い、業務改善を進めている。	6つの検討委員会を設置し意見や提案などを話し合い、業務の改善に向けた取り組みを行っている。ケアに関する意見や提案が多く介護計画へ反映している。年1～2回、管理者による個人面談の実施、必要に応じて随時面談を行い職員の思いや意見の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリア基準書など法人で昇給の仕組みがあり、新たな人事評価制度を整備中である。職員の向上心がより高まるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議で勉強会を行う他、法人内、グループホーム連絡協議会等の外部研修会に積極的に参加する。また事業所内の委員会の責任を各自持つことで、ケアの質を高めるていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との連携を深める機会が多いとは言えない。グループホーム連絡協議会による研修や交流会を積極的に活用し、サービスの質の向上に繋がるように努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学、本人・家族との面談、居宅ケアマネより情報収集を行い、本人の生活暦や心身状況、思いの理解に努める。入居後は、馴染みの関係作り、不安な気持ちの軽減のため、声掛け・傾聴を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で、本人に対する家族の思いを傾聴し、相談しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の心身状況、思い、その他の情報と合わせて、当館で提供できる必要なサービスを検討する。必要があれば、行政・他サービスへの連絡、案内を行う。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	現状は、支え合う関係までには至っていない。本人の思いを汲み取りながら、同じ目線で一緒に家事等に取り組む、時に職員が本人に寄り添うことで、関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、本人の近況を家族に報告し、本人の思いを家族へお伝えする。家族の思いも聴きながら、面会や外出など家族にご協力頂き、共に支えられるように連携を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力により自宅等の外出はされているが、これまでの馴染みの人や場との関係は希薄になっている。支援内容について検討する。	アセスメントや家族からの情報で、馴染みの人や場所の把握に努め、家族の協力を得ながら墓参りや自宅訪問などの支援をしている。年賀状など手紙の支援、面会への声かけや面会に来やすい環境づくりを心がけ、関係継続への支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく交流できるように、職員が間を取り持つ支援を行っている。利用者同士で声を掛け合うこともある。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族、現在利用している事業所等に相談、支援の希望があれば応じる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人に寄り添いながら、その思いや意向の把握に努めているが、十分とはいえない。把握方法を工夫し、全職員で共有することで、本人本位のケアを目指す。	思いや意向は、アセスメントや部屋担当の職員との日常の関わりや言動を参考にしたり、申し送りノートや職員間の情報で全職員共有している。職員会議で話し合いながら、本人中心のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族との面談による情報収集、居宅ケアマネからの情報提供により、これまでの暮らしについて情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活記録、バイタル測定等により、一日の過ごし方や心身状態を確認する。活動を通して有する力を見極め、一人ひとりに合った活動にお誘いしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思い、生活状況や心身状態、介護職員の意見、主治医意見書、認定調査結果等を勘案して、課題を分析し、計画を作成している。	本人・家族からは、面会時に思いや意向を把握して、職員間の日常のケアの気づきや意見を反映させ、主治医の意見を入れて、介護計画を作成している。モニタリングは毎月行い、見直しは6ヶ月毎に実施している。状況に変化があった時は、その都度見直し現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>生活の様子や心身状態については個別に記録しているが、ケアの気づきや工夫の記述は少ない。申し送りや会議で、情報の共有を図っている。今後、実践や計画作成に活かせるように努める。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族からの要望、ニーズに、ご家族の協力を頂きながら適切に対応できるように取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>隣接するこども園と行事を通して交流しているが、今後は他の地域資源の発掘に力を入れ、連携及び協力できる関係を作る。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関を、本人、家族の同意を得て、かかりつけ医としている。受診は、家族、職員が付き添う。本人の状態や希望により、主治医が専門医に紹介、情報提供を行っている。</p>	<p>協力医療機関が主治医となって月2回の往診と週1回の訪問看護、24時間医療連携体制が図られている。他科受診については家族の協力を得ながら必要に応じて職員が付き添うなど適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎日のバイタル測定等により健康状態を確認し、異常が見られた場合に看護職員に連絡し、指示を仰ぐ。訪問診療、訪問看護の際にも情報を伝え相談している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院関係者に利用者の生活状況、心身状態の情報を提供し、病院関係者から入院期間や治療状況について情報を得るように努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に重度化や終末期に向けた方針を説明している。介護度が重度化しても可能な限り、本人、家族の意向を取り入れてサービスを提供する。当施設での対応が困難になった場合は、家族、医療機関に相談し、今後の対応を検討する。</p>	<p>重度化や終末期に向けた方針を入居時に本人・家族に説明して同意を得ている。重度化になった時は家族と話し合いを重ね、本人・家族の意向を踏まえ、できる限り施設で対応している。看取りについては法人としての指針・マニュアルを作成し、法人の医療機関とも連携をとり支援している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変・事故発生時のマニュアルがあるが、全職員に浸透していない。応急処置法、救急蘇生法と合わせて、勉強会を予定している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の消防署職員立会いの防災訓練を6月に実施。夜間想定は次回予定。全職員が習得しているとは言い難く、更なる訓練が必要。民生委員、公民館に協力を依頼している。</p>	<p>年2回消防署立ち合いで防災訓練を実施している。避難経路・避難場所・誘導の時間の確認・自動通報装置・スプリンクラーの点検等を行っている。地域の協力をお願いしている。災害時の水・米・菓子等の備蓄も用意している。非常持ち出し用の個人ファイルの作成も検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人の人間、人生の先輩として、不快な思いをさせないように入居者に応じた言葉遣い、声掛けを行う。プライバシーに欠けた行為の修正に努めている。</p>	<p>接遇の研修を通して一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保について意識付けを行っている。排泄や入浴時の声かけや対応には羞恥心に注意して支援している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>選択が必要な場面で、本人に分かり易く問いかけて、ご自分で決めて頂く機会を作る。誕生日は、本人が食べたい物をお聞きしている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>業務の流れで職員側のペースになる場面を反省し、できるだけ本人のペースで過ごせるように支援していく。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>身だしなみは、衣服の調整や道具を用いた整容など、ご自分でできないところを支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	意欲がある時、職員と一緒に調理作業、食前の準備に参加して頂く。食事前に、職員がメニューを説明する。下膳や皿洗いにもして頂くことがある。	自家菜園で採れた野菜を職員と一緒に調理したり、台拭きや配膳・下膳・皿洗いをしている。誕生日には好きな献立で対応している。行事食、節句、花見の弁当、おせち料理、そうめん流し、けせん団子作り、ラッキョウ漬け、梅干し作り、外食等、食事が楽しみなものになっている。ミキサー食・とろみ・きざみ食にも対応している。献立や作り方、行事食に力を入れて、食事を楽しむことの支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた形態、量で準備している。食事、水分量は、毎回記録して把握している。普段より量が少ない時は、次回に多めしたり、好みの物を提供したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。歯ブラシを用いたケアが難しい方は、専用ティッシュで拭き取り、専用ブラシを用いて口腔内を刺激する支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご自分で排泄に行かれない、行かない方は、適宜トイレへお誘いする。立位困難かつ尿意、便意の意思表示が難しい方はオムツの使用をお願いしている。できるだけ布パンツの使用をお薦めしている。	排泄チェック表を活用して、個々のパターンを把握している。日中は声かけ誘導して、できるだけトイレでの排泄を支援している。パットの種類を考慮して、その都度調整している。排泄が改善された事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便を記録し、状態を把握している。便秘の予防に、適度な水分摂取、運動を支援している。便秘になりやすい場合は、医療職に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は週3回で、昼寝後にバイタルを測定してから案内している。職員と交流しながら、浴槽にゆっくりつかるなど入浴を楽しめるように支援している。	入浴は週3回、午後から実施し体調や気持ちを考慮し柔軟に対応している。脱衣室・浴室にエアコンを設置し断熱材を使用している。拒否のある利用者にはタイミングや声かけの工夫で対応、必要に応じて清拭や足浴・更衣等を行っている。菖蒲湯を使って季節を感じ楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動が負担にならないように、状況に応じて休息して頂く。就寝時は、利用者の思い、状態を確認した上で、居室へ案内している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を確認しているが、より精通することが必要である。服薬直前に二人の職員で薬を確認し、手渡しなど利用者に合った支援を行う。変化があれば、医療職へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	脳リハ、歌唱、散歩、ドライブなど様々な活動や調理、清掃など家事に参加して頂き、楽しみ、役割をもてるように支援している。個別の支援が課題である。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	季節の花の観賞ドライブなど、外出する機会を増やしている。本人に希望があれば、可能な限り対応する。家族、地域との協力関係は不十分である。	その日の希望に沿って、天気の良い日には散歩やこども園の子供たちと話をしたり、畑に出かけている。できるだけ希望を把握して職員が対応している。年間計画で墓参り・たけのこ掘りに出かけたり、馴染みのカラオケに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設でお預かりしているが、精神的安定のため、家族の希望で所持されている方もいる。本人の希望があれば、買い物等の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人に電話の希望があれば、施設の電話を使用して頂く。絵葉書を準備し、好きな所へ送れるように支援する。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、不要な物は置かず、温度湿度調整をして、利用者を不快にさせないようにしている。季節感のある花や装飾を飾っている。家庭的な雰囲気、居心地の良い空間づくりを心掛けている。	共用空間は明るく広く季節の花や手芸作品が飾られている。台所はアイランドキッチンとなっており開放感と生活感がある。断熱材が使用され、室温・湿度管理が行われている。家庭的な雰囲気で居心地よく過ごせる環境となっている。座り心地の良いソファが置かれ食後にゆっくりできるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事スペースの横に、肘掛付きのソファでゆっくり過ごせるスペースを設けている。気の合った利用者同士が会話を楽しめるように、席の配置に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたものや好みのものの持ち込みをお薦めしており、写真等思い出の品を飾られている方もいるが、家具はタンス等が備え付けられているため、活かされていない現状がある。</p>	<p>居室にはエアコン・ベット・タンス等が備え付けられている。それぞれが使い慣れた家具や品物を持ち込み、家族の写真や手芸作品などを飾り、居心地よく過ごせる環境となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>転倒に繋がる不要な物の除去、ベッドの高さ調整、居室・トイレの表示など、ご自分の能力を活かして生活できるように支援している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない